

# 「“ちがい”から考えよう！」

## 人とのかかわり

氏名：高橋 真江美

学校名：山形県長井市立豊田小学校

担当教科：第5学年担任

実践教科：学活、算数、道徳、総合的な学習の時間

(他、異文化理解の学習として家庭科、図画工作、各2時間)

時間数：8時間

対象学年：5学年

人数：25名

### 【実践概要】

【1】単元（活動）名：“ちがい”を見つめて

【2】単元目標：

世界や身近なところにある“ちがい”について考えることを通して、他尊・自尊につながる行動を起こすことができる。

関連する学習指導要領上の目標：

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる立場や意見を尊重すること。道徳 B 主として人との関わりに関すること〔相互理解、寛容 第5学年及び第6学年〕

【3】 単元の 評価規準	①知識及び技能	様々な“ちがい”を写真や動画、体験活動から見つけることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	見つけた“ちがい”が何によるものかを考え、認めるべき違いなのか否かを判断し、言葉で表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	“ちがい”について積極的に考え、学んだことを自分の生活にかしたり、他者に伝え広めようとしたりすることができる。

【4】

単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

現任校に勤務して以来7年間、高学年の担任をしてきて感じていたことがあった。それは、本校を含め4つの小学校から1つの中学校に進学した際に生じる人間関係づくりの難しさである。特に単学級で学んできた本校の児童は、言葉にして伝えずとも互いを理解するほどに濃密なかかわりの中で過ごす環境が一変し、様々な相手との出会いにうまく対応できないことが多かった。もちろん、その中で多くのことを学ぶのだが、中には早々に不適應の状態に陥る生徒も少なくなかった。そこで、まずは他者と自分のちがいを認め、互いを尊重することの大切さを考えさせたいと思い、本単元を設定した。

【単元の意義】

最大の意義は、ちがいを異質なものとして排除するのではなく、そのちがいごどこから、何から来るものなのかを考えることである。ちがいのちがいを考えた上で、

個性や文化によるものであれば受容し、尊重する。あるいは、貧困や差別、偏見によるものであれば、それを解消するためにできることを考え、行動に移す。そうした判断ができる一つのきっかけとなるのが、本単元の意義である。

**【児童／生徒観】**

男子16名、女子9名、計25名の元気で活発な学級である。25名の多くが同じ保育園から入学し、単学級で生活してきた。特別な配慮を要する児童が複数名おり、その児童の困り感を学級全体でサポートし、努力を応援しようとする心情が育っている。一方で、学級内の人間関係が固定化し、気の合う数名としかコミュニケーションをとろうとしない児童がいたり、影響力の強い児童に他の児童が気をつけて本音を出せずにいたりする様子もしばしば見られる。また、不特定多数の他者とかかわることや大勢の前で自分の意思を伝えることに強い抵抗感を持つ児童も少なくない。本単元の学習を通して、身近にあるちがいが個性であっても偏見の目で見ていることがあるということに気付いたり、あってよいちがいを隠さずに生きていきたいという希望を持ったりすることができるようになってほしいと願っている。さらには、学んだことを本学級以外の誰かに伝え広める活動を通して、自分の考えや行動に意義を感じ、多様な他者とかかわる時にこの学びをいかそうという心情を持てるようにしていきたい。

**【指導観】**

本単元で考えさせたい内容は、真の意味で理解するには大変難しいものである。ちがい（個性や文化）を認めることの大切さを頭ではわかり、言葉では「大切だ。」と言うことができたとしても、それを心底理解し、行動につなげるとなれば、大人でも難しい場合が少なくない。いずれ、成長するにつれてそうできるようになってほしいという願いは持ちつつも、今それを強要するのではなく、一つの“ちがい”を見つめ、それが何によるものなのかを考える“ちがいのちがいに気付く目”を持たせることを重視して指導にあたる。その目が、多様な他者とかかわろうとする“芽”になり、枝葉が伸びるようにかかわりが広がっていくという長期的なイメージを見失わないようにする。

**【5】 単元計画（全8時間）**

時	『小単元名』 学習のねらい	学習活動	資料など
1	『写真で知ろうタンザニア』 (総合)  写真を見て、どれがタンザニアのものかを考えることで、自己に内在する偏見や思い込みに気付くとともに、新たな時代へ踏み出している今のタンザニアについて知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者がタンザニアで撮った10枚の写真を黒板に貼る。児童は、タンザニアだと思った写真に赤、違うと思ったものには緑のシールを貼る。(各色一人3枚ずつ)</li> <li>・赤、緑ともになぜそう思ったか考えを出し合う。</li> <li>・すべてがタンザニアの写真だと伝えた上で、感じたことや考えたことを話し合う。</li> <li>・授業の感想を書く。</li> </ul>	授業者作成によるパワーポイントと印刷した写真

2	『タンザニアの人と触れ合おう』  (総合) 長井市職員のタンザニアの方から、タンザニアについてのお話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする。</li> <li>・タンザニアの国の概要や特色について知る。</li> <li>・さらに聞いてみたいことを質問し、知識を広げる。</li> </ul>	長井市役所総合政策課オリンピックパラリンピック・文化スポーツ交流推進室の皆さん、タンザニア選手団の皆さん
3	(学活) 長井マラソンに出場したタンザニア選手団の方と食事をし、一緒にグラウンドを走る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする。</li> <li>・給食を一緒に食べながら、聞いてみたいことを質問したり、日本や長井のことを伝えたりする。</li> <li>・日本とタンザニアの食文化の違いに触れる。</li> <li>・ともに走って親交を深める。</li> </ul>	
4	『割合で世界を知ろう』(算数)  世界の現状について百分率で求め、その結果から考えたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①水道水を安心して飲める国の割合</li> <li>・②小学校、中学校教育を受けている子どもの割合</li> <li>・③日本の食料自給率について、概数で表したものをういて百分率でその割合を求める。グラフ化する。</li> <li>・①～③の結果を知って考えたことを話し合う。</li> <li>・感想を書く。</li> </ul>	JICA 小冊子「世界の水問題」「世界の食料」「学校へ行きたい!」Webサイト「メリデメ」
5 <b>本時</b>	『ちがいのちがいを考える』(道徳)  人種、性別、宗教、個性、貧富、文化、差別の観点からなる「ちがい」について話し合い、自分が他者と関わる時に大切にしたいことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7つのちがいについて3～4人のグループで「あってよい、あって当然のちがい」「迷う、どちらとも言えないちがい」「あってはならない、なくしていきたいと思うちがい」の3カテゴリーに分類しながら、なぜそう思うのかを話し合う。</li> <li>・グループの考えを全体でシェアする。</li> <li>・分類した理由や迷ったとことを話し合う。</li> <li>・「あってよい、あって当然のちがい」でもなかなか受け入れにくい場合もあることに気付くとともに、「あってはならないちがい」をなくしていくために自分達に何が出来るかを話し合う。</li> <li>・感想を書く。</li> </ul>	※本時の展開参照
6  7  8	『学んだことをつたえよう』(総合)  自分達の学びを伝えたい相手を決め、その相手に合った方法でそれを伝えるとともに、自身の学びについて振り返り今後の生き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学びを振り返り、タンザニアあるいは“ちがいのちがい”の学習で知ったことや考えたことを整理し、それを伝えたい相手を決める。(⇒話し合いの結果、隣の小学校の5年生に決定)</li> <li>・相手に合った方法で自分達の学びを伝える方法を考える。(⇒クイズに決定)</li> <li>・グループごとにクイズを考え、必要な資料を準備する。</li> <li>・隣の小学校を訪れ、クイズに答えてもらう。</li> <li>・単元全体の振り返りをする。</li> </ul>	児童と作成したパワーポイント

【6】本時の展開（5時間目）

本時のねらい：人種、性別、宗教、個性、貧富、文化、差別の観点からなる7つのちがいについて話し合い、自分が他者と関わる時に大切にしたいことを考える。

過程・時間	教員の働きかけ、発問（○）および学習活動、指導形態 児童の反応（・）	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<p>1. これまでの学習を画像で振り返る。</p> <p>○今までタンザニアのことをいろいろ学んできましたね。その中で様々なちがいがありました。どのようなことが挙げられますか。</p> <p>・食事、文化、校舎のようす、肌の色…等</p>	<p>・電子黒板に写し、全員で見られるようにする。</p> <p>・人種、性別、宗教、個性、文化、貧富、差別からくる違いを挙げ、パワーポイントとプリントで提示する。</p>	<p>写真（※パワーポイント資料の抜粋…添付資料①）</p>
展開  (8分)	<p>「今日は、みなさんの身近にあるものも含めて、『ちがい』について考えてみましょう。」</p> <p>2. ちがいのちがいについてグループで話し合う。</p> <p>○これから7つのちがいが書かれたプリントをグループに配ります。そのちがいが当てはまる場所に付箋を貼ります。なぜ、そこに貼るのか理由を話し合いながら進めてください。</p> <p>・これは間違いなくあって良いちがいでしょ。</p> <p>・この髪形のちがいはどうなのかな？</p> <p>・水のちがいは、ないほうがいいけどなくすのって難しいよね。</p>	<p>・個性や価値観によるちがいで児童が迷う事例としてヘアドネーションのために長髪にしている男子と部活のポリシーで短髪にしている女子を取り上げ、考えを深める題材とする。</p>	<p>ワークシート 「ちがいのちがい」をグループに一枚配布 (※添付資料②) パワーポイント (添付資料③) (※授業の様子A)</p>
(5分)  (7分)	<p>3. グループごとの結果を全体でシェアし、迷ったところを話し合う。</p> <p>○話し合った結果を黒板にマグネットで示してください。</p> <p>○特に迷ったものはどれでしたか。また、それはなぜですか。</p> <p>・髪形のちがいで迷いました。女の子が部活の決まりで髪を切ることを強要されているとしたらそれはおかしいと思いますが、本人がそうしたいと思っているなら良いと思うからです。</p> <p>・ぼくも、そう思います。(※同様の意見複数)</p>	<p>・話し合いが滞っている場合は暫時一緒に考え話す。</p> <p>・各グループの結果を色別のマグネットで黒板に可視化する。</p> <p>・一つの迷いが提示された後、他のグループの児童にも意見を求める。</p>	<p>(※授業の様子B)</p> <p>(※授業の様子C)</p>

<p>(13分)</p>	<p>○他にどうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくたちは、水のところで迷いました。なぜかという、誰でも安全な水を水道から飲めるようになったら良いと思うのですが、それって本当にできるのかがわからないというか、どうしようもないという場所もあるんじゃないかなあと思って…。</li> <li>・なるほどねえ。</li> <li>・私達の力で水のことで何とかなるのかなあ。</li> </ul> <p>4. 日頃の自分をふり返り、葛藤するところを話し合う。</p> <p>○あって当然と思うちがいがいだけれど、なかなか受け入れにくいと感じるものはありますか。また、そのような違いに出会ったら、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、髪形のところで迷っちゃうと思います。病気で髪の毛を失った人にあげるために伸ばしていると聞いたら、「へえ、そうなんだあ。」と思うけど、でもやっぱり男子でそんなに髪を伸ばしている人を見たら、「なんか変だな。」って思ってしまうと思います。</li> <li>・私は、すごいなあって思います。その人の考えは正しいし、その人が自分でそうしようと決めたことならいいと思うからです。</li> </ul> <p>○この7つに限らず、こんなことで迷ったとか困ったということはありませんか？では、こんな時はどうでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あ、マラソンの人。誰だっけ？</li> <li>・シアシさんだよ。</li> <li>・なんかかわいそうだった。</li> <li>・なんで？</li> <li>・給食をほとんど食べていませんでした。</li> <li>・どうしてかな？</li> <li>・日本食に慣れていなかったんだと思います。</li> </ul> <p>○この場面で実際に近くにいた人はどう感じましたか。また、他の人はどうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何だか話しかけるのも悪いような、どうして良いかわかりませんでした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迷ったところに価値があること、今すぐ何とかしなければならないのではなく、そのことについてこれからも考えていくことが大切であることを伝える。</li> <li>・理想論を語るのではなく、本音で話せる雰囲気醸成できるようにする。</li> <li>・あれば児童の経験を取り上げて掘り下げる。なければ、給食交流会で日本食をどうしても食べられなかったシアシさんの事例を取り上げ、自分事として考えてみる。</li> <li>・児童の発言をキーワードで板書する。</li> </ul>	<p>(※授業の様子 D)</p>
--------------	---	--	-------------------

- ・ぼくも、特に何もしてませんでした。
- ・ううん。無理やり食べさせるのもちがうし、でも、全然食べられないのもかわいそうだし…。
- ・慣れてないからしょうがないって思うけど、どうしたらいいかはわかりません。
- ・自分が食べて見せて、「おいしいよ。」って伝えて、「ちょっとでもいいから食べてみて。」と言いたい。
- ・給食の後、外で一緒に走った時は元気に笑顔で過ごしていたから、食べることに意外に一緒に楽しめることを見つけて関わったらいいと思います。

まとめ

(7分)

5. 授業の感想を書く。
- これから様々な人と関わっていく時に、自分が大切にしたいと思うことはどのようなことですか。それを含めて、今日の授業の感想を書きましょう。

- ・時間に応じて書いたものを発表させ、感想の一部を共有する。

(※授業の様子 E)

添付資料

① パワーポイント「これまでの学びをふり返り（抜粋）」



② ワークシート「ちがいのちがい」

5年 道徳 グループワークシート

### 「ちがい」の「ちがい」を考えよう

☆7つの「ちがい」が、それぞれどの「ちがい」かを話し合っ、当てはまる所に「ふせん」をはろう。

	A あってよい あるのが当たり前 ちがい	迷う AともBとも言えない ちがい	B あってはいけない なくしていきたい ちがい
<b>ちがい①</b> 博斗くんはサッカーが好きで、瑞穂さんは絵をかくことが好き。			
<b>ちがい②</b> ソフィさんは神様を大切に思っていて、たくやくんは仏様を大切に思っている。			
<b>ちがい③</b> ひとしくんは髪の毛をのぼして、みきさんは髪の毛をとても短くしている。			
<b>ちがい④</b> あつくんは朝食にご飯とみそ汁を、マイケルくんはバナナスープを食べる。			
<b>ちがい⑤</b> ンワカさんのはだのいろは黒で、みゆきさんのはだの色はうすい茶色と黄色をまぜたような色をしている。			
<b>ちがい⑥</b> アリーさんは学校で使う水を川からくみ、めぐみさんは水道水を使う。			
<b>ちがい⑦</b> Aくんは、Bくんに対しては乱暴な口調で話し、Cくんに対してはおだやかな口調で話す。			

③ パワーポイント「7つのちがい」

① 博斗くんはサッカーが好きで、  
瑞穂さんは絵をかくことが好き。



② ソフィさんは神様を大切に思っていて、  
たくやくんは仏様を大切に思っている。



③ ひとしくんはかみの毛をのぼして、  
みきさんはかみの毛をとても短くしている。





④あつくんは朝食にごはんとみそ汁を食べ、  
マイケルくんはバナナスープを食べる。



⑤ンワカさんのはだの色は黒で、みゆきさんのはだは  
うすい茶色と黄色を  
まぜたような色を  
している。



⑥アリーさんは学校で使う水を川からくみ、  
めぐみさんは家でも学校でも水道水を使う。



⑦Aくんは、Bくんに対しては乱暴な口調で話し、  
Cくんに対してはおだやかな口調で話す。



## 授業の様子

### A グループでの話し合い



### B 話し合った結果を可視化



### C 迷ったところを全体で



### D 給食を 食べられ なかった 選手の様子



### E 感想を書く





### 【7】 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・様々な“ちがい”を写真や動画、体験活動から見つけることができたか。(発言・挙手)
- ・見つけた“ちがい”が何によるものかを考え、認めるべき違いなのか否かを判断し、言葉で表現することができたか。(ワークシート・発言・ふり返りの記述)
- ・“ちがい”について積極的に考え、学んだことを自分の生活にいかしたり、他者に伝え広めようとしたりすることができたか。(ワークシート・発言・ふり返りの記述 次時への見通し)

### 【8】 学習方法及び外部との連携

1 教時…授業者が作成したパワーポイント資料及び選定した写真を使用した。

2 教時…長井市役所総合政策課 オリンピックパラリンピック・文化スポーツ交流推進室よりタンザニア人の職員の方と通訳の方を派遣していただき、タンザニアの概要説明や日本で暮らしてみてもの感想などを話してもらう。

3 教時…長井マラソンに参加したタンザニア選手団の皆さんを招待した。また、長井市役所総合政策課オリンピックパラリンピック・文化スポーツ交流推進室より通訳の方を派遣していただいて交流を行った。

4 教時…校内研修の研究授業関連の1時間として実施した。

5・6・7 教時…本時を含む3時間は学級で実施した。

8 教時…隣接する小学校に赴き、同じ5年生の児童にクイズを紹介して答えてもらったり、授業者がタンザニアから持ち帰った日用品や学用品等を一緒に見たりした。

その他…図画工作の時間に、株式会社バラカさんと長井市役所のご協力を得てティンガティンガのワークショップを実施した。また、家庭科の時間には市内在住のタンザニアの方や長井市国際交流員の方などをゲストティーチャーとしてお招きし、タンザニアの郷土食ウガリの調理実習と試食を行った。

### 【9】 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

校内では、1～3年生にはパワーポイント資料と授業者がタンザニアから持ち帰った日用品や学用品等を見せながら、タンザニアで見聞きしたことを伝え、質疑応答を行った。4年生と行う際には、隣接する小学校の児童を招待して2校合同授業として実施した。

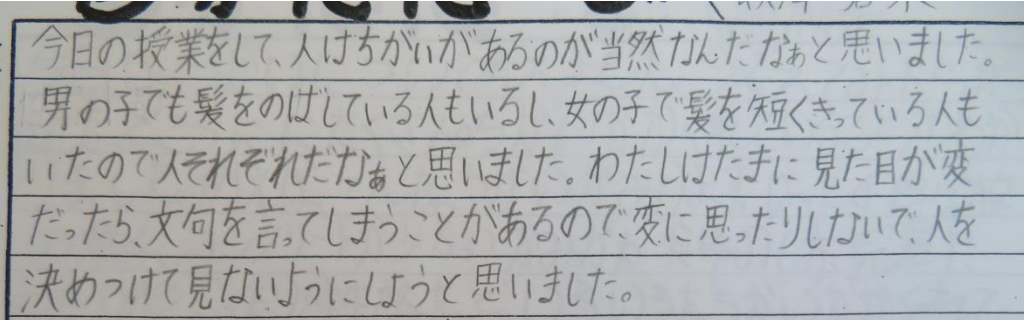
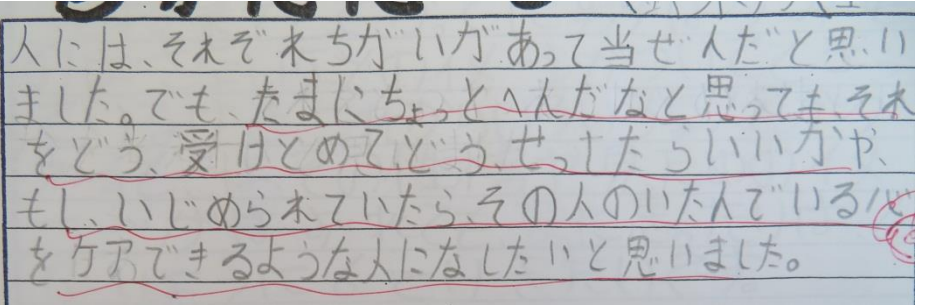
5年生は本時の展開からの流れを受け、上欄に示した内容で実践した。6年生については、社会科の国際理解の単元の授業を私が行き、その際にタンザニアの情報や青年海外協力隊、SDGsに関する内容を盛り込んでいく。随時、校内に設けた特設コーナーにて資料の展示を行い、知り得た情報を児童自身が行動に移せるような投げかけをしていく。

写真や実物については、長井市豊田地区の文化祭実行委員の皆さんにご協力いただき、文化祭期間中にコーナーを設けて展示していただいた。今後も、機会を捉えて紹介していく。

### 【自己評価】

#### 【10】 苦労した点

- ・つけたい力とそれに関連するSDGsをうまく結び付けて教材化することが難しいと感じた。
- ・現地で知り得た情報や撮影してきた写真、動画をどのように取舍選択するか非常に悩んだ。
- ・つけたい力に迫るために、本時では「多様な他者」の例を提示することにしたが、何をどのように挙げるか迷いに迷った。

<p>【11】改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時では、「多様な他者」を具体的に捉える支援として7つの情報を提示したが、視点が多すぎて思考を深めることが難しかった。</li> <li>・事例の取り上げ方が適切だったか、再度検討する必要がある。日本の給食をほとんど食べられなかったタンザニア人に対して、「無理強いはいしない。」という意見が出ていたが、「それが給食ではなく、自分が作った料理だったらどう感じるか。」と本音を訊いてみたり、「どうしたら食べてもらえたか。」と解決策を考えさせてみたりするなど、もうひと押し、深掘りする手立てを入れたかった。</li> <li>・ワークとして「ちがいのちがい」を取り上げた以上、迷った部分を深める展開は入れた方がよかっただろう。しかし、「あってよいと頭では分かっているけど受け入れがたいちがい」について考えた本時の展開にもそれなりの成果はあったので、児童の実態や授業時間等を考慮して展開を模索した方がよさそうである。</li> <li>・「他者とかかわる時には、相手の状況や価値観を尊重することが大切だ。」という一般的な気づきをした上で、「では、それをどこまで受け入れるのか。」「受け入れられないまでも否定はしないという接し方もできるのではないか。」といったより実生活に密着した事例で個人の考えを深める実践を重ねていくと、より本時の学びが活きてくるだろう。</li> </ul>
<p>【12】成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国ではなく、人に焦点を当てたこと、身近なちがいも提示したことで、児童が一つ一つの事例を自分事として考えることができた。児童が自己を見つめ、知らぬ間に持っていた偏見に気づいたり、葛藤と正直に向き合ったりする様子が見られた。</li> <li>・単元を通して学んだことを誰かに伝えたい、広めたいという思いを多くの児童が持つことができた。また、多様な他者との関わり方を学んだけれども、隣の小学校に行っていざ初対面の人と実際に関わろうとすると恥ずかしさから尻込みしてしまう自分に気づいた児童も複数いたので、「ここからが本当の学びだ。」という次に繋がるしめくりができたことも成果として捉えている。</li> </ul>
<p>【13】学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>自己の変容への気づきやこれからの繋がる考え</p>  <p>今日の授業をして、人けちがいがあるのが当然なんだなあと思いました。男の子でも髪をのばしている人もいるし、女の子で髪を短くきっている人もいたので人それぞれだなあと思いました。わたしはたまに見た目が変だったら、文句を言うてしまうことがあるので変に思ったりしないで人を決めつけて見ないようにはうと思いました。</p>  <p>人には、それぞれちがいがあって当せんだと思いました。でも、たまにちょっと人だなと思っててもそれをどう、受けとめてどうせうたういいかな、もし、いじめられていたら、その人のいた人でいることを受けとめるような人になりたいと思いました。</p>

日本では当たり前な事を外国では当たり前じゃないから無理させないで受け入れる事が大切だと思っ。外国の事(タンザニア)をもっと詳しく知れて良かった。日本と外国ではちがう事がたくさんあるからそれをバカにしないでアローすれば良いと思っ。人々ちがう持ちようがあるからそれが自分ちがってバカにしないようにしたい。分からない事を教えてあげられるようになりたい。

人々しゅみはあっていいと思っけど苦手なものはしかり言え  
てがいいと思っます。  
自分などはちがっても人々の個性はかならずあるからそれを冷やかすようなことはしないほうがいいと思っ。これからたくさんの人にあたりおるけど、自分つしがもっていない力はあるからそれをだしてがんばりたいです。

タンザニアに対する印象の変化

たくさんの意味がこめられていたからです。意味だけきくととてもしあわせそうにと考えられますし、とてもいい国だと思っます。二つ

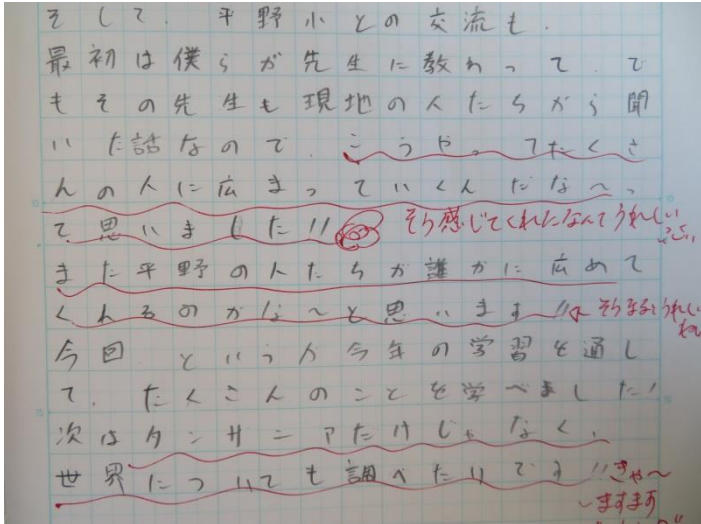
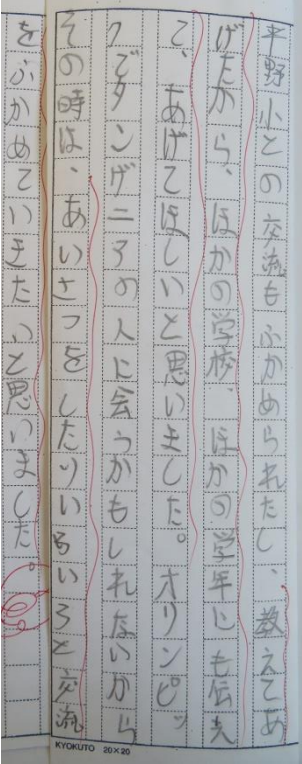
ました。二つ目は、タンザニアの国旗は、

よりもいい国だと思っました。  
かんばって働いて、親を大切にしているな  
分は日本にすんでいるけど、真ししくらしても  
TANZANIA 学習が変わったことは、自  
ました。  
のる首都はタンザニアという国を有名で人気  
スバ、きれいなビルなどをたくさんつく  
いる首都はタンザニアという国を有名で人気  
のある国にするための大切なくつうだと思っ  
ました。

ニヤの人々で、ひんぼうで、学校にも通えない人  
がいて、ガカワいそうを国だと思っました。で、  
い月に、道徳でタンザニアの人たちの気持ちを考  
えて、から、ひんぼうでくらしくおつちいけと、幸  
せに家族とくらしくして、知、たので、  
ニヤの人々に対するイメージが少し変わりました。

ぼくは、最初にバハティさんの授業を受ける  
まではタンザニアは、小さくて、ひんぼうで幸せ  
じゃない国だと思って、いたけど、いろいろなた  
ニヤの人々と交流すること、で、タンザニアに  
てのイメージがだんだん変わって、いきま  
た。



	<p>さらなる交流拡大への期待</p> 	
<p>【14】授業者による自由記述</p>	<p>東京オリンピックパラリンピック（2020年）に向けて、長井市がタンザニアのホストタウンになったところから私の挑戦が始まった。全くの未知の国だったタンザニアがこんなにも身近に感じられるようになるとは、私自身が一番驚いている。本研修に参加し、JICAの方々や共に旅した仲間、お世話になった皆様のおかげである。</p> <p>これからオリンピックを経て、より一層グローバル化が進む時代を生きていく子ども達にどんな力をつけたいか、自分にどんなことができるかを考えるところから本実践をスタートさせた。SWOT分析による実態把握から始めて、本報告書に記した内容を実践して一つの節目を迎えたが、カリキュラム・マネジメント上のゴールはまだまだ先にある。今後も多くの方々のご協力を得ながら、次世代を生きる児童の健やかな成長を目指して微力を精一杯発揮していきたい。</p>	

参考資料：

- ぼくら地球調査隊「世界の水問題」（JICA 地球ひろば 独立行政法人国際協力機構 2017）
- ぼくら地球調査隊「学校に行けない世界の子どもたち」（JICA 地球ひろば 独立行政法人国際協力機構 2018）
- ぼくら地球調査隊「世界の食料」（JICA 地球ひろば 独立行政法人国際協力機構 2018）
- 「国際協力とわたしたち～学校に行きたい！～」改定第七版（独立行政法人 国際協力機構 JICA 2018）
- 学校組織マネジメント研修テキスト 平成 15 年度改訂版（マネジメント研修カリキュラム開発会議 文部科学省 2004）
- ウェブサイト「メリデメ」 <http://merideme.jp/3330>
- ウェブサイト「together」 <http://together.com/li/1267020>